

令和8年度 教育事業（ボランティア養成研修）

- [主 催] 国立曽爾青少年自然の家
[期 日] 令和8年5月9日（土）～10日（日）
[対 象 者] 地域貢献を目的としたボランティア活動や青少年教育に興味がある者（高校生以上）
[参加/募集] 9名／45名
[講 師] 吉田昌功 氏（五條市立五條小学校 講師）
[担 当] 増田 学・森岡亮平（企画指導専門職）
福田 卓（管理係）

1 趣 旨

青少年施設ボランティアに求められる知識・技能を習得し、教育事業や研修支援などを担う人材を育成するとともに、ボランティア活動の推進及び充実を図る。

2 ねらい

- ①豊かな自然の中で、活動する意義、ボランティア活動の内容や役割、対象者等について理解し、活動の楽しさを体験する。
- ②ボランティアとして必要となる知識・技能を習得する。
- ③青少年教育として行われる事業やその運営方法について理解する。

3 プログラム展開

5月 9日（土）

開講式・オリエンテーション

講義 「青少年教育とは？（青少年教育）」

実技 「曽爾高原ハイキングを体験しよう（ボランティア活動の技術）」

実技 「普通救命講習Ⅰ（安全管理）」 講師：宇陀消防署職員

講義 「子どもたちの多様性に応えるために（ボランティア活動の意義）」

講義 「曽爾青少年自然の家を知ろう（青少年教育施設の現状と運営）」

実技 「キャンドルファイアーをしよう（ボランティア活動内容理解）」

交流 「曽爾でのボランティア活動を知ろう」

5月10日（日）

実技 「野外炊事体験（ボランティア活動の技術）」

講義 「ボランティアについて（青少年教育施設の現状と運営、登録制度）」

閉講式

4 活動の様子



【普通救命講習のようす】



【講義のようす】



【野外炊事体験のようす】

5 まとめ（ねらいに対する参加者の感想、ねらいに対するアンケート結果）

本研修では、自然体験を通してボランティア活動の意義や役割への理解を深めるとともに、実践的な学びを得ることができた。参加者からは「活動中に子どもへの関わり方や注意点をその都度教えてもらったのがよかった」との声があり、現場での具体的な指導が学びにつながっていた。また、「みんなで一体となり協力できたことが印象に残った」という声もあり、野外炊事での協働の大切さを実感していた。さらに、「先輩の存在で不安が軽減された」という声や、「理論的に子どもとの接し方を学べた」という意見も見られ、安心して参加できる環境と、体験と理論を結びつけた学びの両立が図られていた。本研修は、活動の楽しさとともに、ボランティアとしての基礎を多面的に学ぶ機会となった。